2025/1/28（火）

朝の礼拝

聖書　ヨハネによる福音書 15 章 1-5 節（新約聖書 194 頁）

　私はまことのぶどうの木、私の父は農夫である。私につながっている枝で実を結ばないものはみな、父が取り除き、実を結ぶものはみな、もっと豊かに実を結ぶように手入れをなさる。私が語った言葉によって、あなたがたはすでに清くなっている。私につながっていなさい。私もあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、私につながっていなければ、実を結ぶことができない。私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである。

愛の御手

　「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である」とあるこの聖書箇所には「つながる」が 10 回、その後に「とどまる」が 4 回、繰り返されます。ぶどうの木が生長して枝を伸ばすように、私の愛につながりなさい、とどまっていなさいと言っています。

　そして続きには「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」（12 節）とあります。最も重要な掟の第二の戒めですね。ですから、その前にあるこのぶどうの木と枝のたとえは、第一の戒め「主なる神を愛する」ことのたとえなのです。

　「つながる」とは（ここでは）弟子がイエスを選んだのでなく、イエスが弟子を選んだこと、「とどまる」とは弟子たちがイエスに従ったのでなく、イエスが弟子たちと共に旅をしたことです。「主なる神を愛する」とはイエスに選ばれ、共に旅したイエスを想い起こすことです。

　年度末が近づいてきました。改めて英和生として選ばれた意味をふり返ってみましょう。そして英和の学びをふり返りましょう。過ちのある、足りない私の手を離さず、寄り添って旅を続けて下さった方を想い起こし、共に祈りましょう。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、あなたは十字架を前に、弟子たちと最後の晩餐を過ごし、ぶどうの木のたとえを通して、彼らを選び、永遠に共にいると約束されました。どうか道に迷い、誤った道に進んでも、あなたの御手を伸ばし共にいてください。そして喜びと感謝を献げる時を共に迎え、次のステージへと導いてください。今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン